# ２０１５年度特別研究期間　研究成果概要

所属・職・氏名：　　法　学部・教授・門田　修平
研究課題：第二言語（英語）におけるシャドーイング・音読および語彙処理過程についての心理言語学研究
研究期間：２０１５年４月１日～２０１６年３月３１日

研究成果概要（日本文（全角）の場合は2,000字程度）

第二言語におけるシャドーイング・音読については、当初、次の２つの課題の解明を目指すのが目的であった。

(1)シャドーイング・音読のトレーニングが、第二言語読解における学習者の内的音韻リハーサルにいかなる効果をもたらすか検討する。

(2)シャドーイング・音読を中心とした第二言語（英語）習得理論を構築する。

上記(1)(2)については、これまでの筆者による研究成果、とりわけ、なぞり読みによる内的リハーサルの行動実験結果および、 NIRS（光トポグラフィ）を使った脳内処理実験結果をふまえて、それらの理論的考察を内外の研究成果を渉猟しつつ行う。そして、それらの考察の上に立って、『シャドーイングと音読の科学』(2007 年刊）を増補改訂した『シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学』を以下の３つのポイントを盛り込む形で刊行した（コスモピアより 2015 年 11 月に刊行)。

①英語によるコミュニケーションが、実は複数の情報処理を同時進行で行う多重（三重）処理を特徴とすることを明らかにした上で、この多重処理能力を獲得するためのポイントを新たに序章において検討した。

②スピーキングなどのアウトプット能力の向上に、シャドーイング・音読がいかに役立つかについて検討した第６章を新設した。

③上記の(2)との関連では、バイリンガリズム（二言語併用）に関する最新の知見をもとに、新たな視点から、認知的にチャレンジングな第二言語学習、特にシャドーイング・音読による多重処理能力育成がもたらしてくれる効果について新たな視点から、同様に第６章において考察した。

また、上記①②③の成果については、現在執筆中の英文による刊行書においても、詳細に記述する予定である。

次に、第二言語における語彙処理過程については、次の２つの解明を目指す予定であった。

(1)心内のメンタルレキシコンへのアクセスにおける語の音韻表象の役割について検討する。

(2)コンピュータ版英語語彙処理テスト（CELP）の２つのバージョンで採用された意味判断課題と語彙性判断課題の妥当性について考察する。

これらについては、すでにその理論的な考察を遂行し、その成果にもとづいて、現在「コミュニケーションに生かせる PC 版英語語彙運用力テスト（CELP-Com テスト）の開発」というテーマで実証研究を遂行途中である。以下上記(1)(2)の考察からいかに CELP-Com テストの開発という研究テーマに至ったかその経緯を簡単に記述する。

外国語（第二言語）としての英語学習において語彙力を増強させることは極めて重要なポイ

ントになるが、単に多くの単語を知っているだけでは実際のコミュニケーションで使える「英単語運用力」にならず、一定時間内（通例 0.4～0.5 秒程度）に、提示された単語の意味が即座に理解できる、その意味を瞬時に長期記憶から引き出せる「自動性」を養うことが必須になる。この単語運用力の観点から、これまで、①PC 画面に２つの英単語（例：house-home、song-heat など）を短い間隔をおいて１語ずつ継時的に提示し、両語の意味が類義であるか否かを判断してもらうという、２語の意味情報を長期記憶から検索する能力を測るテスト（CELP-Sem）、および視覚提示された１つの英単語（例：doise、brick など）が実際に存在する単語（real words）であるか存在しない擬似単語（pseudo-words）であるかを自身の頭の中の心内辞書（メンタルレキシコン：mental lexicon）を検索して判定する能力を測定するテスト（CELP-Lex）を開発した（CELP は、Computer-Based English Lexical Processing の略）。

しかし、以上はあくまでも個々の単語単位でその運用力をテストしようとするものであるが、文の中で単語の処理ができることが、語彙処理においては不可欠であり、実際には、①音声インプットを音響・音声処理装置を作動させることで捉えて文解析装置を使って意味を了解し、②概念化装置によって意図理解をしてどう反応するかも即断し、③その上で定式化装置や調音装置を経て、言語化して音声アウトプットするという、理解、思考、産出の３過程をほぼ同時平行的に進める必要がある。

以上の多重処理生を踏まえた語彙処理テストとして、①文脈適合処理：文の意味内容に適合した単語であるかどうかを正確にかつ瞬時に判定する処理能力、および②２語の意味関連性処理：①の判断の前提となる英単語の意味処理が正確にできているかどうかを測定するテストを作成するという観点から、PC 版英語語彙運用力テスト（CELP-Com テスト）の開発に着手することになった。

こうした経緯を経て開発に着手することになった CELP-Com テスト研究については、幸い２０１６度大学共同研究（公募研究Ａ）として採択され、現在、鋭意テスト開発とその妥当性、信頼性検証を進めているところである。

研究成果概要は、データは gakunai@kwansei.ac.jp まで提出してください。